資料１－４

第 32 回本部員会議資料
令和３年４月 26 日
保健福祉部

**新型コロナウイルス変異株検査結果について**
**（令和３年４月22日　10時時点）**

## １　変異株PCR検査（N501Yスクリーニング検査・岩手県環境保健研究センター）

| 実施月 | 総件数(件) | うち陽性(件) | 検査対象 |
|---|---|---|---|
| 令和3年2月 | 47 | 0 | 1月～2月公表分検体 |
| 3月 | 31 | 0 | 2月～3月21日公表分検体 |
| 4月① | 42 | 2 | 3月22日～4月4日公表分検体 |
| 4月② | 10 | 0 | 4月1日～7日公表分検体 |
| 4月③ | 23 | 0 | 4月1日～12日公表分検体 |
| 4月④ | 13 | 1※ | 4月9日～17日公表分検体 |
| 合計 | 166 | 3 | |

※ スクリーニング検査でN501Y陽性と判明した１件。
国立感染症研究所にゲノム解析を依頼中であり、変異株の確定までは１週間程度。

## ２　ゲノム解析の結果（国立感染症研究所）

| 検査分類 | 検体送付 | 総件数(件) | 解析結果(件) | | | | | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 国内第2波系統 | 国内第3波系統 | 変異株E484K | 変異株N501Y | 解析不能 | |
| 定期検査 | 1回目 | 139 | 119 | 20 | 0 | 0 | 0 | R2.7月～R3.1月分検体 |
| | 2回目 | 71 | 36 | 35 | 0 | 0 | 0 | R2.11月～R3.2月分検体 |
| | 3回目 | 40 | 0 | 7 | 31 | 0 | 2 | R3.3月分検体（N501Yの変異(-)） |
| 随時検査 | 1回目 | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 英国型変異株（N501Yの変異(+)） |
| 計 | | 252 | 155 | 62 | 31 | 2 | 2 | |

【担当】感染症課長　三浦　（内6091）

## 新型コロナウイルス感染症（変異株）の評価・分析

### 1． N501Yの変異のある変異株

- 「N501Yの変異がある変異株」は、従来株よりも、**感染しやすい可能性**がある。
- 英国で確認された変異株(VOC-202012/01)、南アフリカで確認された変異株(501Y.V2)、ブラジルで確認された変異株（501Y.V3）、フィリピンで確認された変異株がこの変異を有している。
- 英国や南アフリカで確認された変異株については、**重症化しやすい可能性**も指摘されている
- 4/19時点、国内事例1,477例、空港検疫200例の計1,677例が確認されている。

### 2． E484Kの変異がある変異株

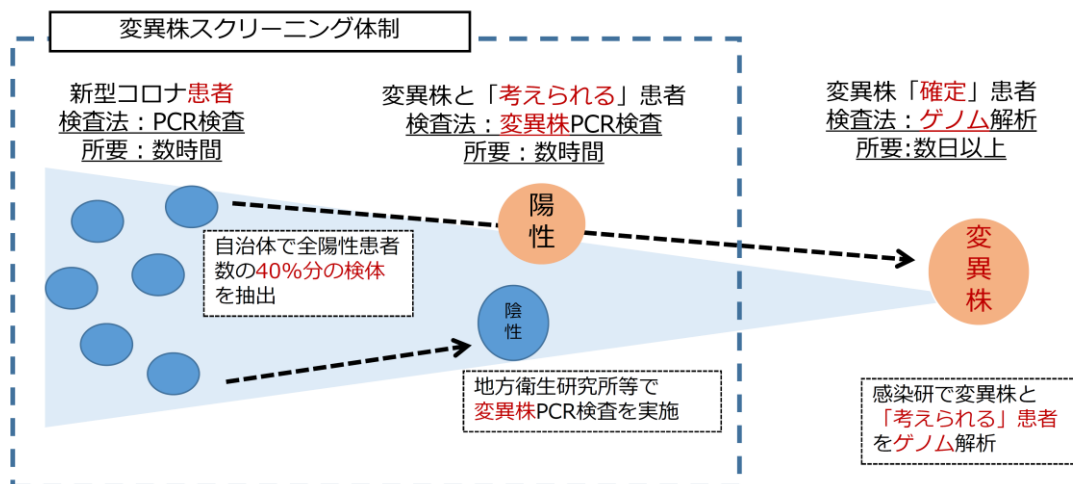
- 「E484Kの変異がある変異株」は、従来株よりも、**免疫やワクチンの効果を低下させる可能性（*1）が指摘**されている。
- 南アフリカで確認された変異株(501Y.V2)、ブラジルで確認された変異株（501Y.V3）、フィリピンで確認された変異株がこの変異を有している。

*1　この変異のみでワクチンが無効化されるものではなく、ファイザー社のワクチンの場合は、承認審査において、モデルウイルスを用いた非臨床試験を通じ、種々の変異株にも一定の有効性が期待できるが、今後も変異を注視し、引き続き検討が必要とされている。

※　上記のほかに、我が国では、E484K単独の変異株（R.1）が計3,092例（国内3,087件、検疫5件）確認。(2021/4/19時点)



## 新型コロナウイルス感染症（変異株）のスクリーニング体制

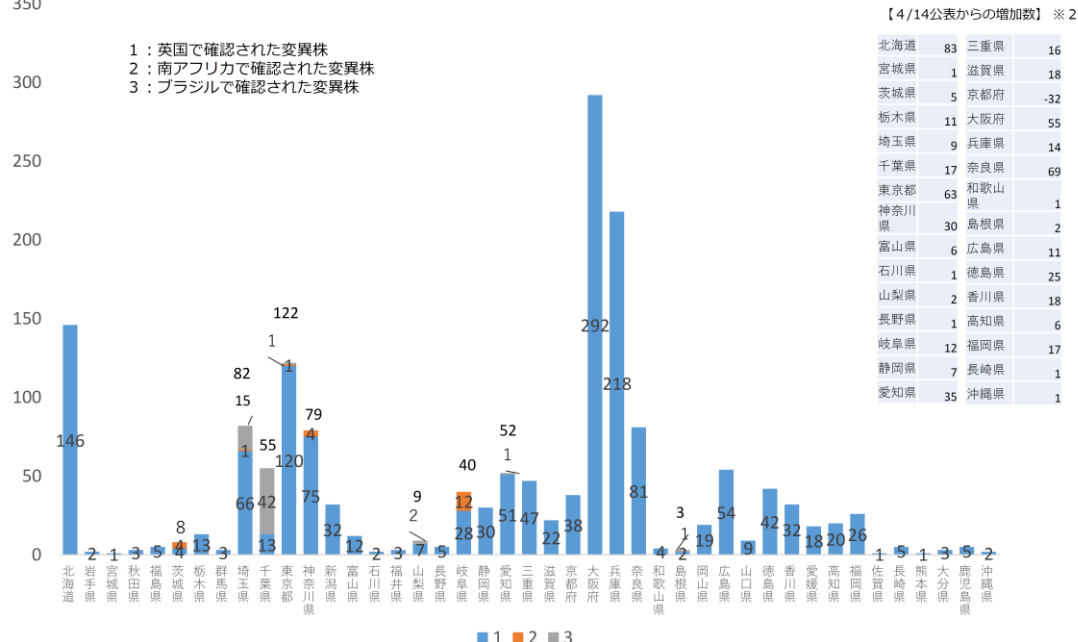
- 民間検査機関や大学等と連携して、**全ての都道府県でスクリーニング検査を実施**。**抽出割合を40%程度に引き上げ、全国の監視体制を強化**。
- 変異株が確認された場合には、**積極的疫学調査や検査を徹底**して、変異株の感染拡大防止に取り組んでいく。

※変異株が確認された自治体においては可能な限り割合をあげてスクリーニングを強化

## HER-SYSデータに基づく都道府県別の変異株（ゲノム解析）確認数

4月20日時点
括弧内は４/14公表との比較※２

- 国内事例1,646例（＋505）、検疫234例（＋34）の合計1,880（＋539）を確認※１
- 国内事例のうち、英国1,562例（＋486）南アフリカ22例（＋７）ブラジル62例（＋12） ※２
 ※43都道府県（新たに宮城県）で確認。

【４/14公表からの増加数】 ※２

| 都道府県 | 増加数 | 都道府県 | 増加数 |
|---|---|---|---|
| 北海道 | 83 | 三重県 | 16 |
| 宮城県 | 1 | 滋賀県 | 18 |
| 茨城県 | 5 | 京都府 | -32 |
| 栃木県 | 11 | 大阪府 | 55 |
| 埼玉県 | 9 | 兵庫県 | 14 |
| 千葉県 | 17 | 奈良県 | 69 |
| 東京都 | 63 | 和歌山県 | 1 |
| 神奈川県 | 30 | 島根県 | 2 |
| 富山県 | 6 | 広島県 | 11 |
| 石川県 | 1 | 徳島県 | 25 |
| 山梨県 | 2 | 香川県 | 18 |
| 長野県 | 1 | 高知県 | 6 |
| 岐阜県 | 12 | 福岡県 | 17 |
| 静岡県 | 7 | 長崎県 | 1 |
| 愛知県 | 35 | 沖縄県 | 1 |

※１　国内事例は公表日前日までにHER-SYSで把握した累計を自治体へ協議した上で計上。検疫は公表日前日までに厚生労働省で把握した累計を計上。
※２　４月14日公表後にHER-SYS上で事例削除・変更等された事例があることから、４月13日時点と４月20日時点との事例数の差分については、負の数となっている場合がある。

## 変異株スクリーニング検査の陽性率（機械的な試算）

2021/4/19時点

| 陽性率<br>陽性者/検査数 | 3/1-7 | 3/8-14 | 3/15-21 | 3/22-28 | 3/29-4/4 | 4/5-11 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 埼玉県 | 5%<br>8/163 | 3%<br>5/170 | 0%<br>0/59 | ３%<br>7/231 | 4%<br>13/368 | 15%<br>69/463 |
| 千葉県 | 1%<br>1/111 | 13%<br>19/150 | 9%<br>16/171 | 7%<br>12/183 | 7%<br>11/166 | 18%<br>48/267 |
| 東京都 | 1%<br>3/217 | 1%<br>2/199 | 3%<br>7/229 | 3%<br>18/556 | 16%<br>106/678 | 28%<br>328/1168 |
| 神奈川県 | 9%<br>12/128 | 10%<br>10/103 | 7%<br>6/89 | 8%<br>13/169 | 13%<br>23/182 | 26%<br>71/268 |
| 愛知県 | 1%<br>1/134 | 0%<br>0/119 | 0%<br>0/49 | 31%<br>29/93 | 47%<br>109/234 | 54%<br>159/295 |
| 京都府 | 0%<br>0/9 | 0%<br>0/17 | 5%<br>1/20 | 37&<br>10/27 | 60%<br>45/75 | 71%<br>102/143 |
| 大阪府 | 28%<br>62/223 | 34%<br>44/129 | 26%<br>60/228 | 54%<br>180/333 | 67%<br>613/910 | 79%<br>1067/1351 |
| 兵庫県 | 32%<br>35/109 | 71%<br>80/113 | 71%<br>133/187 | 75%<br>201/269 | 77%<br>326/426 | 79%<br>477/601 |

※１各報告日時点の集計値を記載しているため、各自治体のホームページ等で公表されている数値と異なる場合がある。※２　速報値のため、今後、精査が必要な数字である。※３　陽性者数に自治体の積極的疫学調査等によって把握した患者が、検査数に過去検体の実績がそれぞれ含まれている可能性がある。地域の感染状況を評価するには注意が必要である。※４　検査数は自治体と民間検査機関（国立感染症研究所から民間検査会社に委託して実施したもの）の合算。